

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和6年度 石川デザイン賞

2024

令和6年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

- ①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。
- ②選考にあたっては、
 - ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
 - ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
 - ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。
表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

委員長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学名誉教授
委員	鮎谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	飯尾 豊	石川県インテリアデザイン協会理事長
〃	大窪 誠	金沢市経済局クラフト政策推進課長
〃	木水 貢	石川県工業試験場繊維生活部長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	番匠啓介	石川県商工労働部産業政策課長
〃	松本いづみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水野一郎	建築家・金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地 (〒920-8203)
石川県地場産業振興センター新館4階
TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242
ホームページ <https://design-ishikawa.jp>



デザインのカ。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎ 受賞者の紹介



まつざわ かつら
松澤 桂
MATSU代表



株式会社五井建築研究所
代表取締役社長 喜多 孝之



輪島キリモト
代表 桐本 泰一

受賞理由

課題解決と価値創造のデザインを基本とし、ブランディング、グラフィック、映像、空間デザインなど幅広い領域でデザインを展開。地域を中心とした多くの案件に携わるとともに、数々の賞を受賞するなど質の高いデザインが国内外で評価されている。

松澤桂氏は都内の制作会社やデザイン事務所でグラフィックデザインや広告の企画制作を手がけ、2007年、(株)電通西日本に入社後、金沢支社に配属されました。同社ではプランナーやディレクターとして活動し、広告クリエイターの仕事に加え、商品企画や事業戦略立案、ブランドコンサルティングなどにも携わりました。

「地方をもっと盛り上げていきたい」、そういった思いを持って、2014年に独立。ジャンルを超えた統合的デザインで、企業や製品の在りたい姿を実現するという考えから、プロダクトデザインや空間デザインなどにも活動領域を広げ、歴史・ストーリーを落とし込むデザインを実践しています。

その姿勢と作品は高く評価され、能登の間伐材を装丁に用いた「金沢ADC年鑑2018」では、イギリスの国際広告賞のブックデザイン部門で日本人で唯一、Wood Pencil(銅賞相当)を受賞しました。

地域での活動にも積極的で、地元企業のエントランス空間を出格子でタイポグラフィを組んで演出したり、金沢の老舗漆器店とのコラボレーションで誕生した漆皿は、世界有数の雷発生地帯である金沢にちなみ稲妻をモチーフにした蒔絵を施すなど、伝統工芸分野にも挑んでいます。

2024年には能登半島地震を受けて、ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」の実店舗「逢うふるさとチョイス」で、同店舗と共同で能登の魅力が詰まった商品を販売する「能登エールプロジェクト」を展開。その際、グラフィックデザイナーが参加するJAGDA石川支部のデザイナー9名とともに、出品する事業者を紹介・応援するポスター等の各種グラフィック作品も制作し、能登地域の復旧、復興への支援にも一役買っています。



新宿マルイアネックスの1階で8~11月にかけて展開した「能登エールプロジェクト」



米沢電気工事(株)(金沢市)が植樹したスギを材料に、出格子でタイポグラフィを組み同社の頭文字「Y」「D」を表現した

PROFILE

1979年新潟県糸川市生まれ。電通西日本などを経て、2014年に独立。釜山国際広告祭FINALIST、Design AwardアジアSpecial KUDOS、日本サインデザイン協会 建築サイン・地域デザイン賞、JAA金賞、KADC2017・2022グランプリなど受賞多数。JAGDA石川支部代表。

受賞理由

金沢を拠点として70年にわたり、創業者の「創造性豊かな建築を通して地域に貢献する」という設計哲学が社員一人ひとりに受け継がれ、地域のにぎわい創出やコミュニティの形成、まちづくりを目指した質の高い建築提案は県内外で高い評価を得ている。

創業70周年を迎えた五井建築研究所。創業時は主に建築家、谷口吉郎の作品の構造設計を担い、金沢美大の学長も務めた創業者、五井孝夫氏は「地方の伝統や特殊性を生かして地域の工夫を加えた建築文化を創造するべき」と考え、それを形にすることを重視しました。同時に、その実現には地域・伝統文化を尊重する姿勢と行動力、自己研鑽が欠かせないと考えを持っていました。

二代目社長の新村利夫氏が1981年に手がけたひがし茶屋街の「藤とし」改修では、伝統的な木造の外観をそのまま残せるよう建設省と折衝を重ねました。耐火建築が推進される中、新村氏の動きがひがし茶屋街の景観保全の取り組みにつながり、国の重要伝統的建造物群保存地区選定の原点となりました。

三代目社長の西川英治氏が2014年(社福)佛子園とともに手がけたのが、福祉施設や地域交流施設を核とする「シェア金沢」です。年齢や性別、障害の有無に関わらず、さまざまな人が分け隔てなく過ごす「ごちゃまぜ」の理念を動線や空間設計に落とし込みました。「シェア金沢」のコンセプトは、白山市の「B's行善寺」(2016年)、輪島市の「輪島カプーレ」(2018年)でも展開されています。

2020年に四代目社長に就任した喜多孝之氏も、創業以来の「地域に貢献する」哲学を受け継いでいます。2024年、JR羽咋駅西口に誕生した「LAKUNAはくい」は近くを流れる長者川や広場と一体感のある立体的な公園のような施設で、利用者の親しみやすさや、駅からの連続性や動線を重視して設計したにぎわい交流施設です。また茨城県では医療・介護・障がい福祉を核としたまちづくりで地域活性化を目指す「フロイデケアタウンひたちなか」の設計など、県内外で地域コミュニティの形成とにぎわい創出のまちづくりに取り組んでいます。



「LAKUNAはくい」は、羽咋駅周辺活活性化のシンボルとしての役割が期待されている



「ごちゃまぜ」のコンセプトをわがまちでも導入したいと設計を依頼された「フロイデケアタウンひたちなか」

DATA

- 代表者 喜多孝之
- 所在地 金沢市問屋町2-1
- 設立 1954年4月
- 従業員 27名
- 主な業務 建築設計・監理・コンサルタント業務

受賞理由

分業制が基本の輪島産地であって、商品の企画からデザイン、木地作り、塗り、販売まで一貫して手がけている。工業試験場が開発したパール漆やIT技術を活用したデジタル店舗など先端技術導入にも積極的で、伝統工芸の未来を切り開くイノベーターの役割も担っている。

豪華な加飾が施された輪島塗は「ハレの日の道具」として知られますが、輪島キリモトでは現代の暮らしに調和する日常使いのアイテムを提案してきました。例えば、木地に厚い麻布を貼り、その上から漆を塗り込む「布みせ技法」により、麻布模様の際立つ味わい深い風合いと、金属製のスプーンが触れても傷のつきにくい耐久性を両立させています。

同社が重視するのは、「心地よく使えるものは何か」という問い(What)を出発点に、実現手段(How)を後から考える開発手法です。大学でデザインを学んだ桐本泰一氏が「HowではなくWhatから」に基づいた商品づくりを実現するため、漆器の製造工程をすべて内製化し、販売も行っています。

新技術の導入にも積極的です。いち早く新素材のパール漆を活用したり、コロナ禍で対面販売が難しくなったため、商品の質感をリアルに伝える超高画質カメラを備えた展示施設「漆のスタジオ」を整備し、リモート接客を開始。また、VR技術を使い漆のスタジオや工房をウェブ上で見学できるようにし、海外からのアクセスも増加させました。

しかし、海外展開が軌道に乗り始めた矢先、昨年元旦の能登半島地震で被災、9月の奥能登豪雨でも浸水被害を受けました。度重なる災害に見舞われながらも、同社は輪島塗を次世代に継承する歩みを止めていません。能登町で民宿を営む夫妻と共に発案した「輪島塗レスキュー&リボン」プロジェクトも、その一つです。被災して傷つき廃棄されそうになっていた輪島塗の器を、職人と共に新たな質感、表情に生まれ変わらせ、新たなお客様へと引き継いでいます。

このほか、県産材などを活用した不燃材に拭き漆を施し、インテリアとしての新たな魅力と市場開拓にも取り組んでいます。



建築内装も手掛け、愛知県のゲストハウスでは、格子や壁面を石川県工業試験場が開発したパール漆という素材を用いて装飾した



「輪島塗レスキュー&リボン」で生まれ変わった器。伝統的な朱色の上に、鉛色に透ける朱合漆を重ね塗りしている

DATA

- 代表者 桐本 泰一
- 所在地 輪島市杉平町大百町70-5
- 創業 1700年代終盤
- 従業員 12名
- 主な業務 漆器製造販売

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告はもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象としています。

令和6年度は、右記の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 **大場吉美**